

鳥取県における林業と地域の新たな関係性の構築

鳥取県日南町を事例に

目次

- 1 はじめに
- 2 鳥取県の林業の概要
- 3 日南町の概要
- 4 日南町の林業の概要
- 5 日南町の J クレジット制度の運用法
- 6 にちなん中国山地林業アカデミーによる地域への定着
- 7 おわりに

1 はじめに

鳥取県は森林面積割合において全国 13 位と高めではあるが、林業産出額においては 31 位と低めである。このことから鳥取県では林業が盛んではないのかもしれないと考えた。しかし、鳥取県で行われている林業の施策の一つとして J クレジットが目にとまった。この J クレジット制度は「まず企業や自治体などが温室効果ガスの排出削減もしくは吸収する取り組みを言う。これらの団体は自身の取り組み内容や削減・吸収される CO₂ 排出量についてまとめ国に申請を行う。国は取り組み内容を精査し申請された分の CO₂ 排出量が正しく削減・吸収されていると認める場合、削減・吸収される CO₂ 排出量に応じた J クレジットを発行する。国の認証を受けたこれらの団体は発行された J-クレジットを他の企業や自対などに販売することが可能になり、入札販売や相対取引、仲介事業者を通じた取引などによって販売される。つまり削減・吸収できた CO₂ の量という目に見えない価値をクレジットとして可視化し、販売可能にしているものである。この制度の意義は創出側と購入側の双方にある。創出側は CO₂ 削減・吸収を行いやすくなる。CO₂ 削減・吸収の取り組みを行う際にかかる費用を J-クレジットの販売で得られる利益で回収することができ、今後行う CO₂ 削減・吸収の取り組みの投資費用にすることができる。このため資金が確保しやすいことで、小さな企業でも CO₂ 削減・吸収のための取り組みが行いやすくなるというメリットがある。購入側は努力をしても減らすことのできない CO₂ の排出量について、他の場所で行われる CO₂ の削減・吸収プロジェクトへの投資を通じて埋め合わせるカーボンオフセットを行うことができる。自社の活動によって排出される CO₂ を J クレジットを使ってオフセットすることができ、また販売する商品・サービスに J クレジットを付加して販売することで、それを購入する顧客が排出する分の CO₂ をオフセットすることも可能である。このプロジェクトの条件として日本国内で実施されること認証対象期間は、プロジェクトの登録から 8 年間、更なる削減が見込める場合は 16 年まで延長できること

追加性が認められることほかのプログラムにおいても認証が認められていること森林プロジェクトである場合、プロジェクトが終了した後も 10 年間は継続的に削減できる森林であるために管理し、報告を行わなければならない」(Jクレジット制度HP) 等がある。

これだけを聞くと双方にメリットがあり、いろいろな場所で行われていてもよさそうだと思うが実際にはほとんど売れていなかった。また 1t 当たりの価格平均も当初想定されていた 40000 円からは程遠く、1000 円から 2000 円ほどと低く、売れた量も総量に比べるとあまり売れていないので失敗した施策だと思われた。この値段になっている背景として 1000 円でも完売できれば赤字にはならないのだがそもそも売れないためにこの値段で国が買っているという状態がある。

しかし、日南町においては 1t 当たり 8000 円と高い水準を維持し続けているにも関わらず Jクレジットの売れ行きが好調であるということを知った。そこで何故ここまで Jクレジットが売れているのか、そこに日南町の地域性や他の施策は関係しているのかを明らかにしたいと考えた。

2 鳥取県の林業の概要

「鳥取県の森林は、県土の約 74%に当たる 259000ha を占めている。この森林の公益的機能の価値は貨幣評価可能なものだけでも全国で 70 兆 2638 億円、鳥取県では 8227 億円と評価されている。」(鳥取県林業統計) 一方、鳥取県では、戦後の拡大造林期に植栽された人工林資源が利用可能な段階を迎えつつあるものの、路網整備の遅れや森林の所有形態が小規模・分散化していることから生産性が低く、また近年のウッドショックによる見直しはあるものの木材価格の低迷等による森林所有者の林業への関心の低下により間伐等の十分な手入れが行き届かない森林が顕在化している。

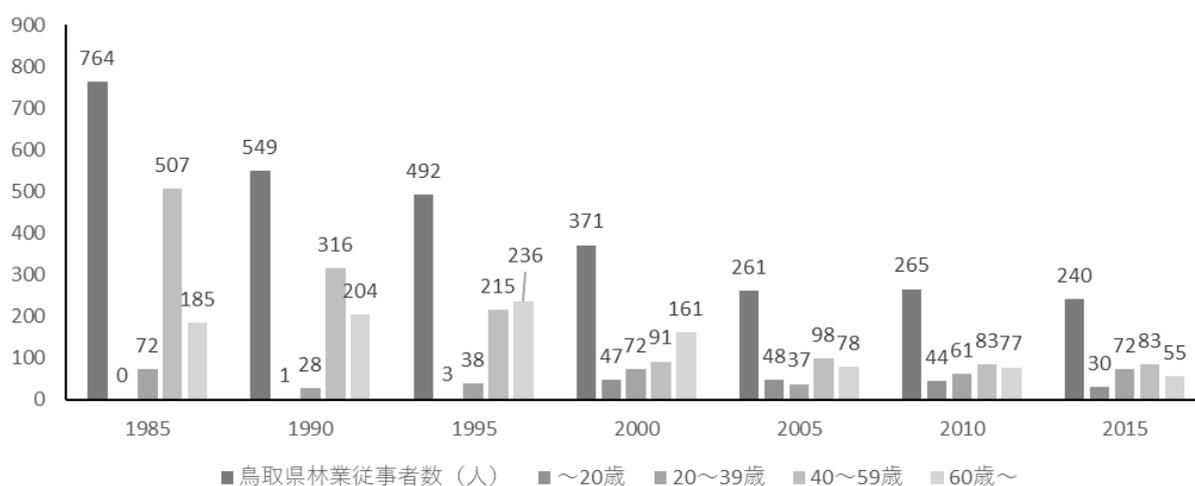


図1 鳥取県年齢別林業従事者数
(鳥取県「鳥取県林業統計」各年版より作成)

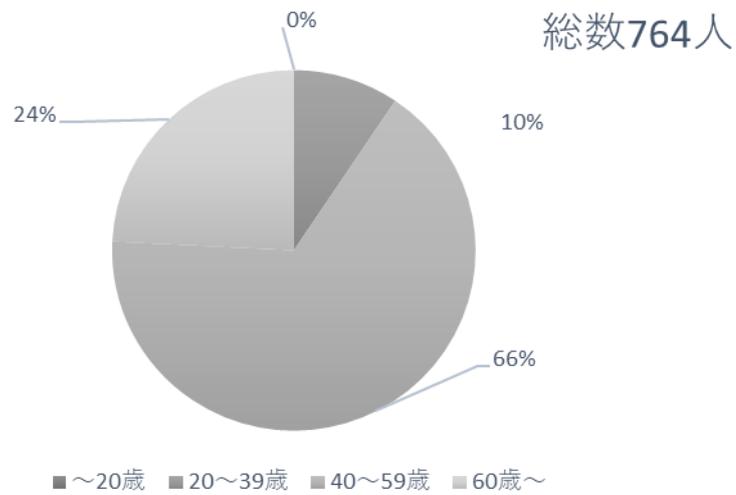


図2 鳥取県年齢別林業従事者数（1985年）
（鳥取県「鳥取県林業統計」1985年版より作成）

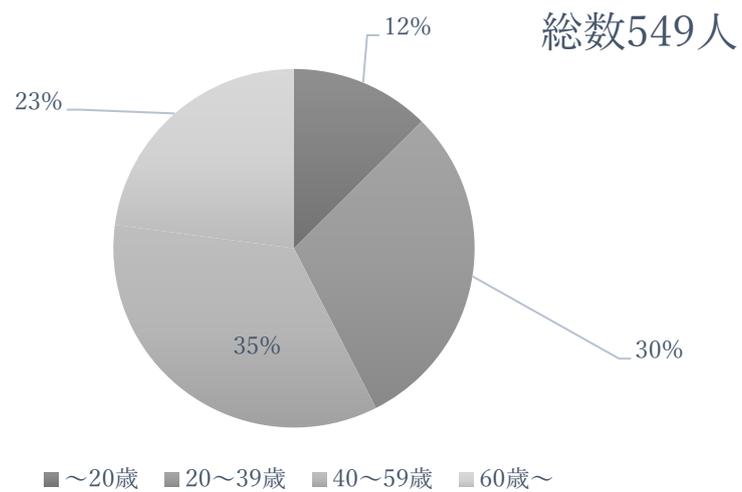


図3 鳥取県年齢別林業従事者数（1990年）
（鳥取県「鳥取県林業統計」1990年版より作成）

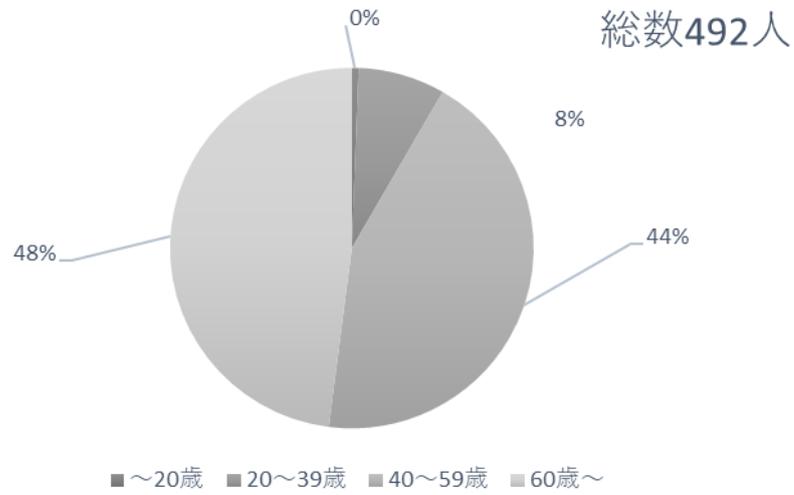


図4 鳥取県年齢別林業従事者数（1995年）
（鳥取県「鳥取県林業統計」1995年版より作成）

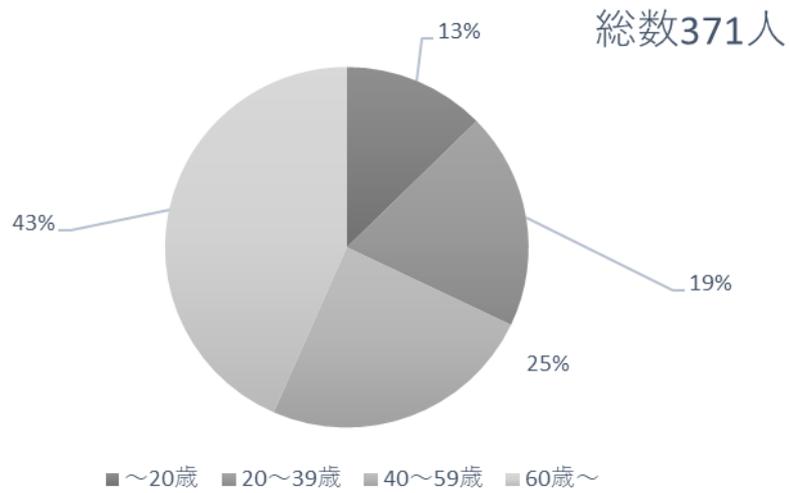


図5 鳥取県年齢別林業従事者数（2000年）
（鳥取県「鳥取県林業統計」2000年版より作成）

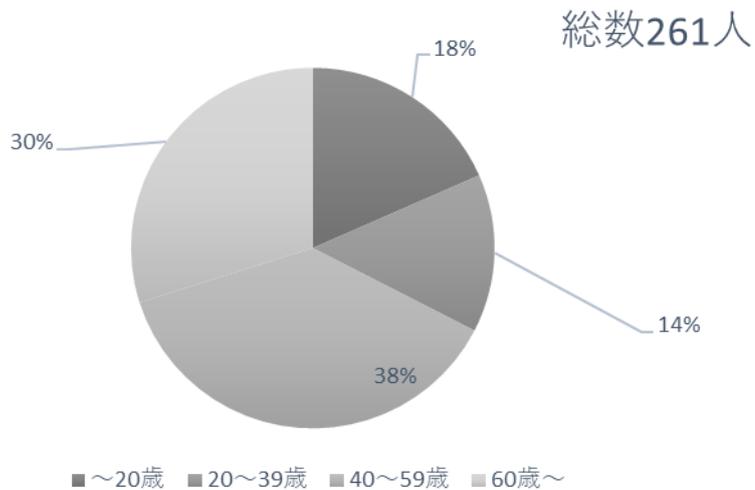


図6 鳥取県年齢別林業従事者数（2005年）
（鳥取県「鳥取県林業統計」2005年版より作成）

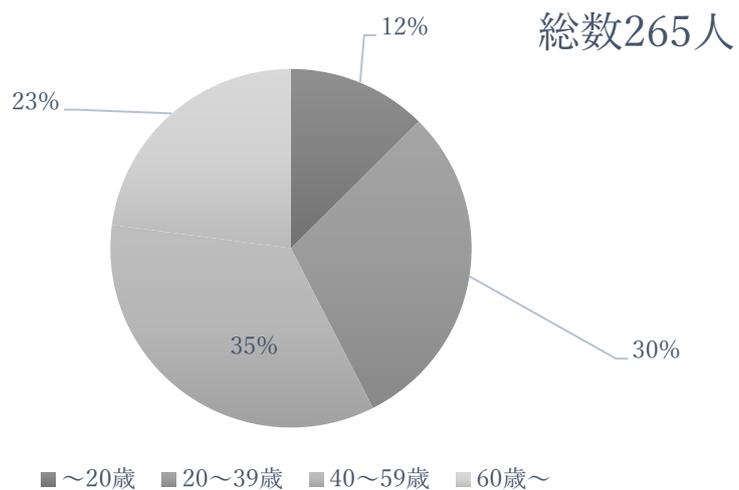


図7 鳥取県年齢別林業従事者数（2010年）
（鳥取県「鳥取県林業統計」2010年版より作成）

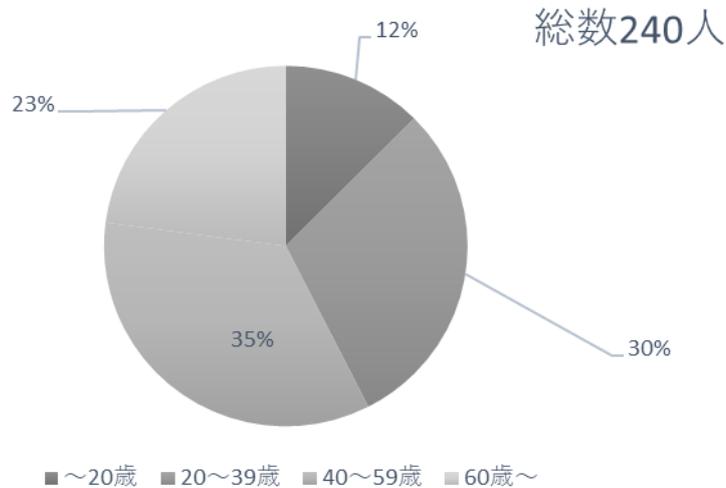


図8 鳥取県年齢別林業従事者数（2015年）
（鳥取県「鳥取県林業統計」2015年版より作成）

そこで鳥取県の林業の従事者の数がどうなっているのかを調べてみた。1985年から1990年にかけて40から59歳が507人から316人、66%から57%へと減り60歳以上が185人から204人、24%から37%と増えている。このことから従事者の年齢が上がり、年齢順に抜けていき新しい若い世代がいないことで高齢化の進んだ期間であるとみられる。1990年から1995年にかけても40から59歳までが年を取ることによって減っていき60歳以上が増えていく傾向が続いたことで60歳以上が最も多くなった。1995年までは若く新しい世代はあまり入ってこず新規の従事者はある程度年を取っている人ばかりであることもうかがえる。しかし2000年からは40歳までの若い世代、特に20歳までが急激に増えている。これは全国的な傾向とも一致しており若い世代が入ることで高齢化率が抑えられ、将来性が期待されている時代であったと言える。2005年になると60歳以上の高齢者の数が一位ではなくなった一方で20歳以下が減っているわけでもないつまり高齢者が抜けながらも若く新しい世代が増えていることがわかる。また1990年以降増加傾向にあった20から39歳が減り、40から59歳が数を維持している理由として以前は20歳以下ではなく20から39歳の段階で林業を始めていた人たちだからであると考えられる。2010年や2015年は人数こそ減っているものの、図7や図8からわかる通りそれぞれの世代の割合はあまり変わっていない。これらのことから、林業従事者の総数は減り続けているものの高齢者の割合はむしろ減り、若い世代が増えていることがわかる。この若い世代は2000年ごろに急激に増えているがこの理由として都会で生きることによって疲れ田舎暮らしを行いたいという若者の傾向がその時期にあったために、田舎もまた田舎で行われている割合の多い林業を含む第一次産業の職を増やしたことが原因だと思われる。

3 日南町の概要

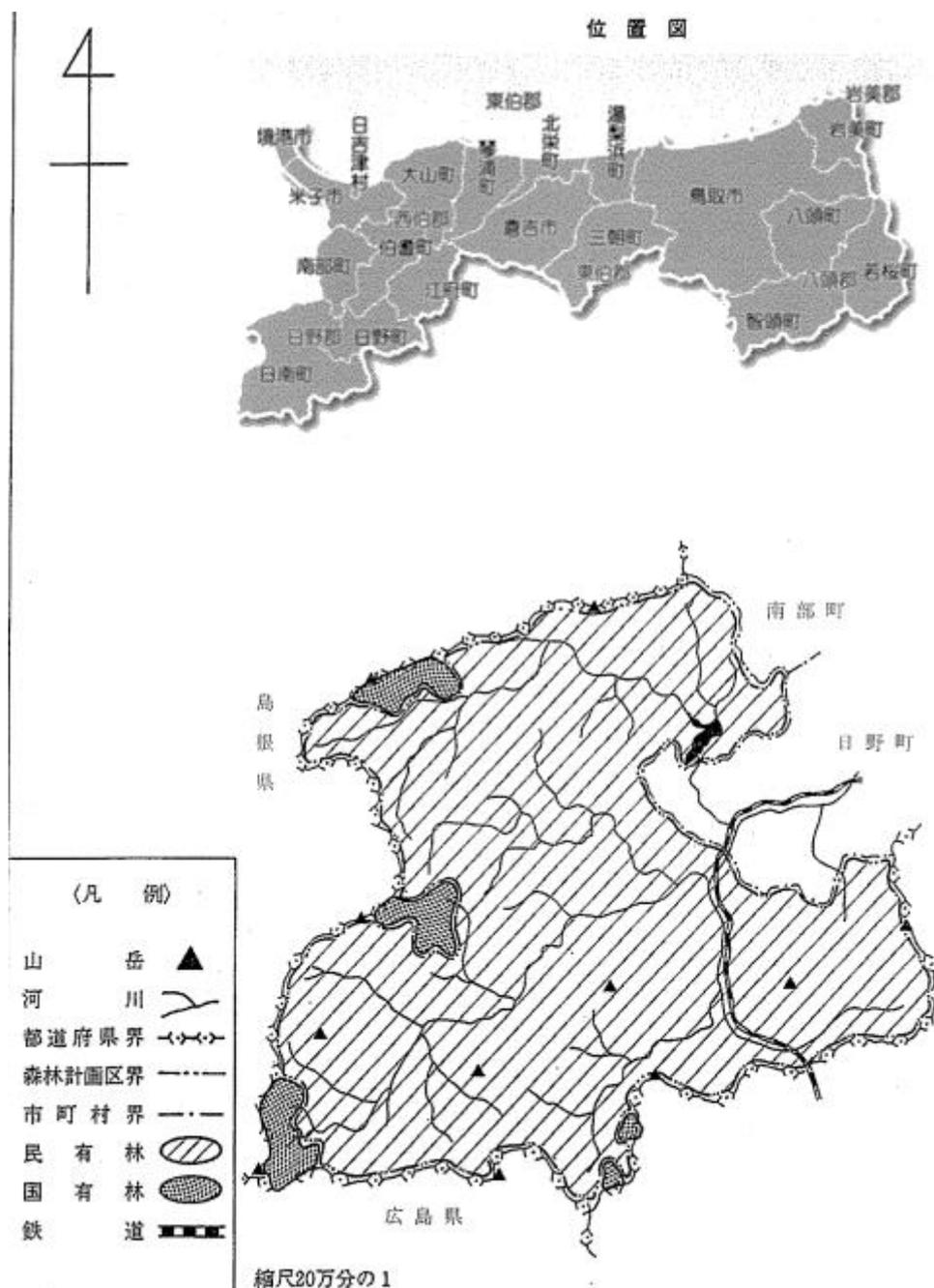


図9 日南町

(鳥取県日南町「日南町森林整備計画」より引用)

日南町は日野郡に属する鳥取県の南西の内陸部にある町であり、中国山地のほぼ中央に位置する。町面積は 34,096ha で鳥取県の 10%ほどを占めていて鳥取県の中では 2 位の大きさである。林野面積は 30,461ha で町面積の約 88%ほどあり、鳥取県の平均の約 74%よりもかなり高く全国 1 位の高知県を 5%ほど上回っている。人工林面積は 19,156ha で林野

面積の約 62%でこちらも鳥取県の平均の 54%を大きく上回っている。このことから日南町は林業に向いている地域であると言える。一方で図 10 からわかる通り日南町の人口減少と高齢化率上昇は進んでおり、2015 年時点で半分に迫ろうとしている。

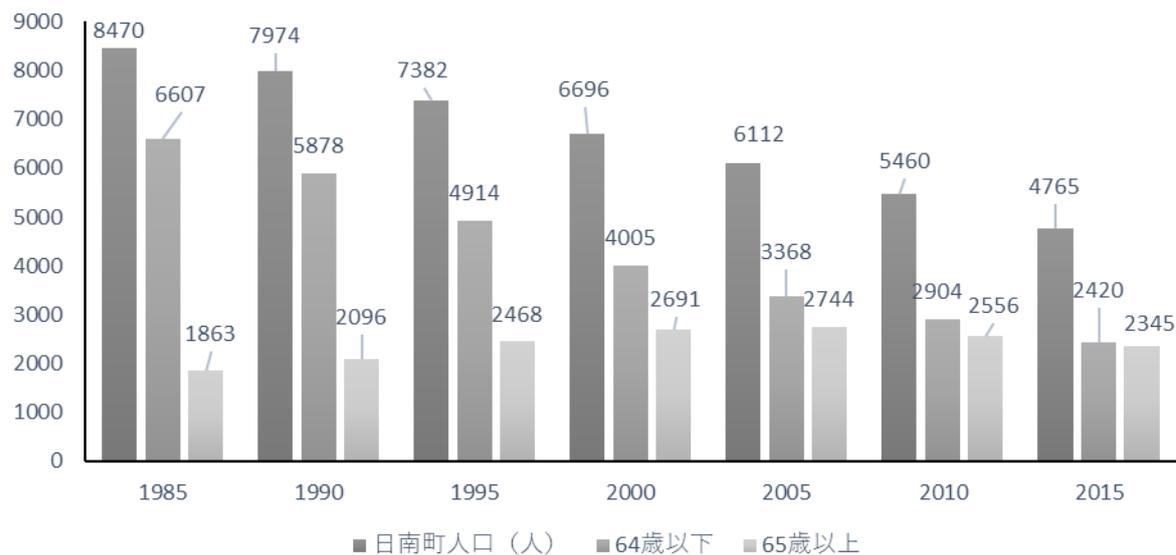


図 10 日南町人口数
(鳥取県日南町「日南町の姿」より作成)

4 日南町の林業の概要

上記のことから一度若い世代が増えたことのある林業は日南町において若い世代を呼ぶ呼び水になるのではないかと考えたが、図 10 からわかる通り 2000 年ごろにおいて日南町の林業従事者は増えておらず、むしろ減少していたのである。しかし全国的にも鳥取県的にも増えているとは言えない 2010 年には減少した数を大きく取り戻している。

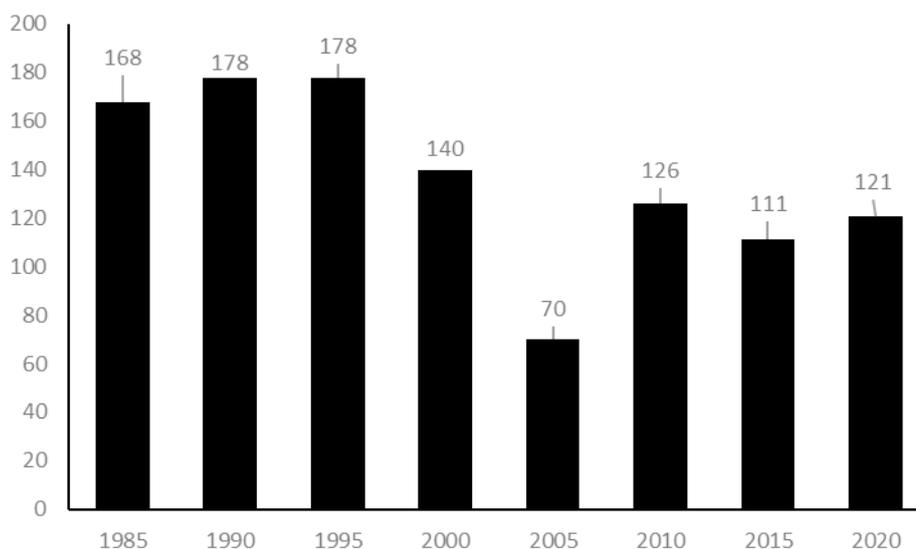


図 11 日南町林業従事者数推移
(鳥取県日南町「日南町役場資料」より作成)

そこで日南町の林業従事者の年齢の割合を調べてみたが、図 12 からわかる通り日南町においては林業従事者の高年齢率が 44%とかなり高かったのである。林業従事者の高年齢率は全国の 25%と比べるとかなりの違いがある。このことと図 11 において 2010 年において大きく数が回復していることは関係があると考えられる。このことを説明できるものとして田園回帰という現象が挙げられる。これは丁度団塊世代が退職する時期であり、第二の人生の場所として田舎を選ぶという現象である。当然そこで職を得るため林業をする人もいるというわけである。この世代はまだ田舎とのつながりを持っている世代であるために日南町にもやってくるが、2000 年代の若者では田舎とのつながりが薄く、またそこまでの田舎を求めているわけではなかったということなのではないだろうか。

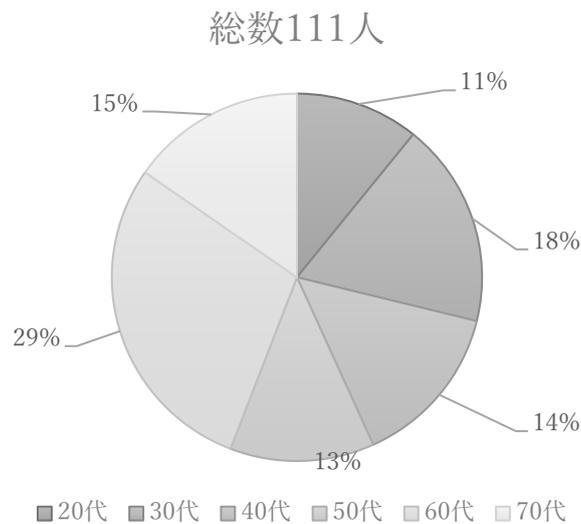


図 12 日南町林業就労者数割合（2015 年）
（鳥取県日南町「日南町森林組合資料」より作成）

また、どこから企業が日南町の木材を買いに来ているのかということも調べてみた。これは表 1 のことであるが、見てわかる通り鳥取県に近い県の企業ばかりである。米子木材市場生山支店では原木のみを扱っているためこの立地は必然といえる。しかし、買いに来ている企業の創業年は岡山や島根の企業は 1950 年前後と古めの企業が多めであるのに対し、鳥取や広島、兵庫の企業は 1990 年以降の新しい企業が多いという傾向にある。普通こういう材木を扱う企業は昔からあって馴染みの所で買うという傾向にあるようだが、ここでは新しい地域からの新しい参入もあったようだ。しかし、買いに来ている企業の創業年は岡山や島根の企業は 1950 年前後と古めの企業が多めであるのに対し、鳥取や広島、兵庫の企業は 1990 年以降の新しい企業が多いという傾向にある。普通こういう材木を扱う企業は昔からあって馴染みの所で買うという傾向にあるようだが、ここでは新しい地域からの新しい参入もあったようだ。

表1 米子木材市場生山支店売買先（2021年8月）

		スギ（本）	ヒノキ（本）
岡山	鳥越工業	756	0
	山下木材	453	238
	院庄林業	0	8
島根	深田製材所	0	3
	立石材木店	42	0
鳥取	鳥取CLT	52	66
	ウッディ若桜	815	1406
広島	フォレストワン	207	0
	ひろしま木材	160	0
	宮迫木材	1500	1923
兵庫	八木木材	574	115

（鳥取県日南町「米子木材市場生山支店資料」より作成）

5 日南町のJクレジット制度の運用法

図13からわかる通り日南町のJクレジットは特に2018年ごろから2017年以前のころに比べて量も件数も二倍以上に大きく増えている。この増えた理由が山陰合同銀行などの銀行に企業を仲介してもらうことと日南町役所での式典の開催及びそのホームページでの広報にある。これにより日南町はJクレジットの継続と林業への投資というJクレジット本来の役割を果たしていると言える。他の所だとJクレジットを行った所で請求書を渡される程度で宣伝にもならないのだが、日南町ではセレモニーを行ってくれるしホームページにも乗せてくれるし、行政ということで信頼度が高い。買っている企業の特徴として山陰合同銀行か鳥取銀行にメインバンクを置いているというものがある。これは銀行に仲介をもらったうえで日南町の職員が直接営業しているからである。同じ鳥取県内でJクレジットを販売しているところとしては日南町森林組合と鳥取県庁があるが、前者は式典を開けず信頼も行政に比べると低いためほぼ売れておらず、後者もより高い行政として信頼度は上であるものの1t15000円とかなり高く、式典も営業もほぼ行っていないためにこちらも売れていない。そのため鳥取県のホームページのJクレジットの情報の所でも出てくるのは日南町ばかりである。また図14からわかる通りJクレジットを買いに来ている企業は近くに山陰合同銀行があるかそもそも立地が日南町に近いということがわかる。

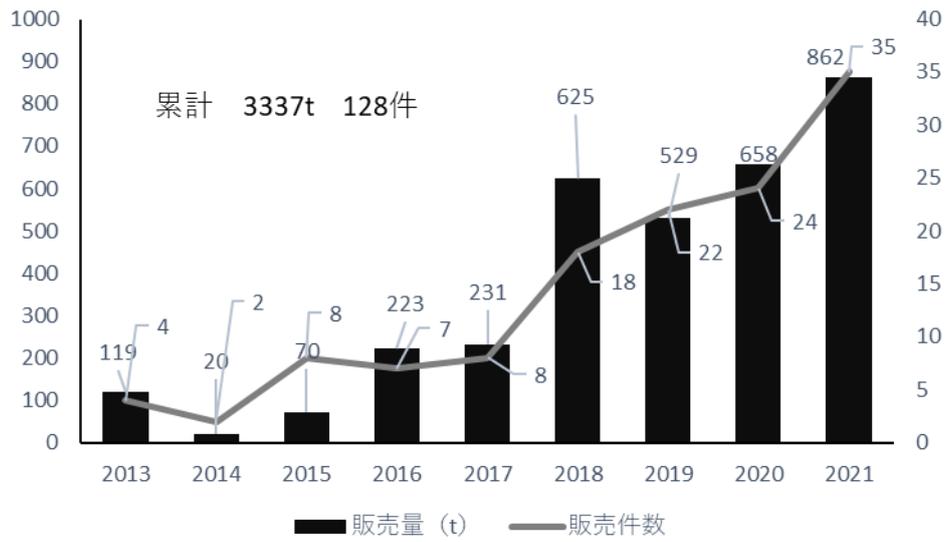


図13 日南町有林Jクレジット販売状況（2021年8月）
（鳥取県日南町「日南町役場資料」より作成）

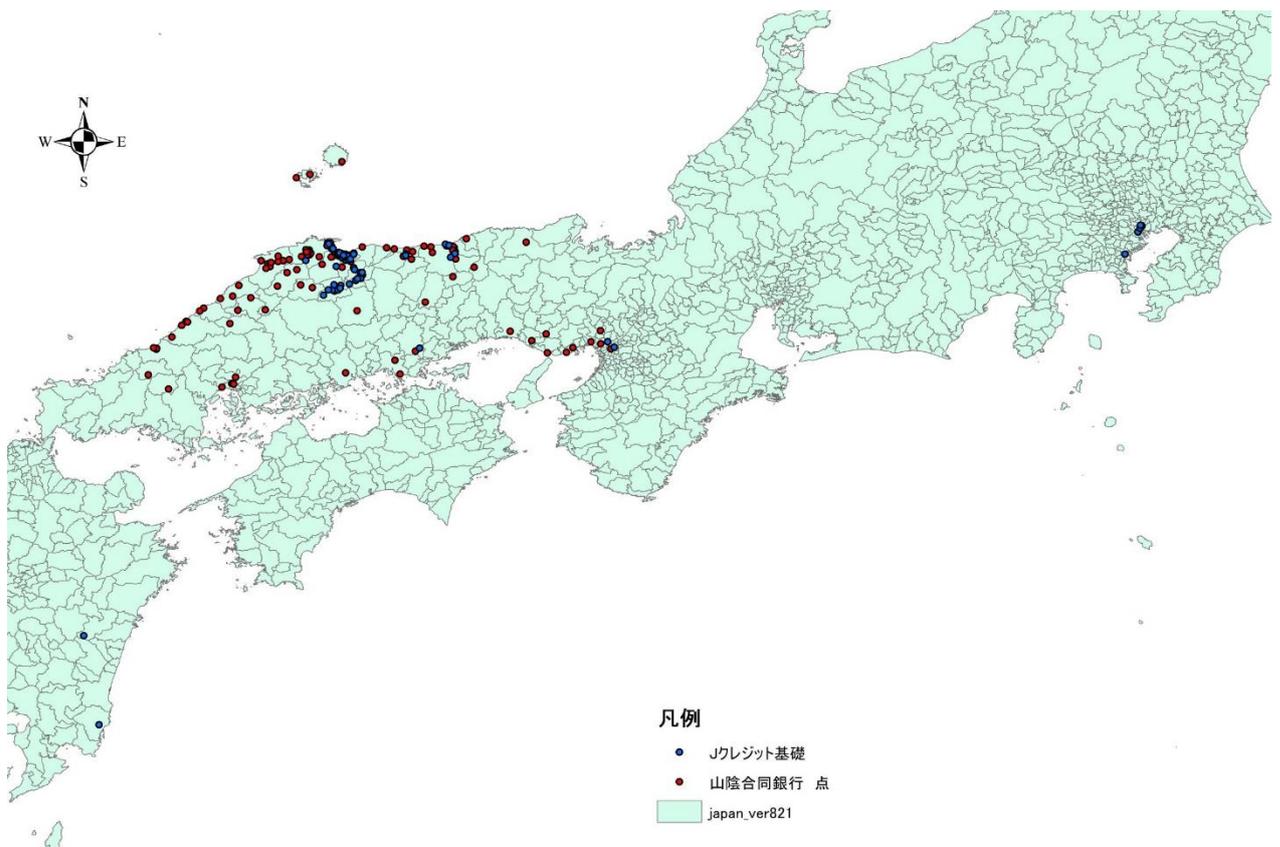


図14 山陰合同銀行（有人のみ）及びJクレジット買取企業
（「山陰合同銀行ホームページ」及び「日南町資料」より作成）

6 にちなん中国山地林業アカデミーの生徒

日南町にある日南町立のにちなん中国山地林業アカデミーは全国で唯一の町立の林業アカデミーであり、2019年にできたとても新しいアカデミーである。このため2019年と2020年は割とばらばらの地域から来ておりなおかつ年齢層が高く、日南町に進路を持っているものが多い。これはもともとどこに住むか予定が決まっていた人であったか会社から林業の技術を学びに来たという人ばかりであったということを示している。しかし2021年度からは若い人が多く出身地と卒業先がばらけやすくなっているということがわかる。これは高校から就職のための進学先として認められつつあるということであり、実際次年度入学予定性も若い人がとても多いということをにちなん中国山地林業アカデミーで教えていただいた。これらのことからにちなん中国山地林業アカデミーは他の県立であるために地元就職しろという噂の強いところとは違い、できれば地元就職してほしいけれどもそれぞれの事情もあるだろうから日南町との関係性を色々なところで持っていてほしいという感じであると思われる。

表2 にちなん中国山地林業アカデミー入学生とその進路

2019年度入学生（年齢）	卒業後の進路	2020年度入学生（年齢）	卒業後の進路	2021年度入学生（年齢）	卒業後の進路
岡山（42）	岡山市	大阪（42）	三田市	島根（23）	未定
京都（36）	進学（京都大）	東京（35）	鳥取市	岡山（21）	岡山
神奈川（37）	日南町	千葉（60）	日南町	広島（18）	西城町
鳥取市（21）	日南町	鳥取市（23）	智頭町	広島（18）	西城町
米子市（18）	日南町	鳥取市（29）	日南町	広島（18）	未定
町内（27）	日南町	町内（18）	日南町	東京（39）	日南町
町内（31）	日南町	町内（19）	日南町	新潟（36）	鳥取東部
				鳥取市（18）	鳥取東部
				鳥取（23）	岡山
				境港（18）	未定
				米子市（18）	日南町
				米子市（37）	未定
				山口（36）	長門市
				山口（43）	長門市
				福岡（67）	未定
				町内（18）	日南町
				町内（20）	日南町

（鳥取県日南町「にちなん中国山地林業アカデミー資料」より作成）

6 おわりに

本稿では何故日南町でここまでJクレジットが売れているのか、そこに日南町の地域性や他の施策は関係しているのかを考察した。その結果日南町という行政であるためにJクレジットに対してできることが多く信頼度も高いと同時に田舎であるために危機感が強く自分たち自身が積極的に地域おこしをしていかなければならないという意識が高いためであるという結果が得られた。これはもともとどこに住むか予定が決まっていた人であったか会社から林業の技術を学びに来たという人ばかりであったということを示している。しかし2021年度からは若い人が多く出身地と卒業先が広がりやすくなっているということがわかる。これは高校から就職のための進学先として認められつつあるということであり、実際次年度入学予定性も若い人がとても多いということである。これらのことからにちなん中国山地林業アカデミーは他の県立であるために地元就職しろという傳の強いところとは違い、できれば地元就職してほしいけれどもそれぞれの事情もあるだろうから日南町との関係性を色々なところで持っていてほしいという感じであると思われる。一方でにちなん中国山地林業アカデミーの生徒の入出先や日南町の木材市場が木材を出荷する先など同じ日南町内の林業における他の分野との関連性は低くそれぞれはばらばらの状態であると言っている。同じ地域の同じ産業の分野でありながら行っていることは別の方向性であり足並みがそろっておらず途中でこけてしまうかもしれないという不安はある。しかしそれぞれがそれぞれのやり方で新しい関係性を築こうとしていることもまた事実であるので、いつか統合されて大きな流れになるのではないかという期待もある。

本研究ではそれぞれの施策がまだ新しく、データもそろいきっておらず関係性も見られないという結果に終わったが、10年後20年後にはその関係が深く広がっていくと感じさせられるものであったためその時改めて調査されてほしいと思う。

参考文献

とりねっと 鳥取県公式サイト 鳥取県林業統計

(<https://www.pref.tottori.lg.jp/100539.htm>)

「日南町の姿」

<https://www.town.nichinan.lg.jp/material/files/group/17/keisaiyou.pdf>

日南町ホームページ (<https://www.town.nichinan.lg.jp/>)

日南町役場資料

日南町森林組合資料

日南町森林整備計画

https://www.town.nichinan.lg.jp/material/files/group/4/atc_1490630996.pdf

米子木材市場生山支店資料

にちなん中国山地林業アカデミー資料

山陰合同銀行ホームページ (<https://www.gogin.co.jp/>)

Jクレジット制度ホームページ (<https://japancredit.go.jp/>)

